

福井の戦国 歴史秘話

<第2号>

平成29年3月31日発行

名だたる武将に愛された絶世の美女、お市の方！

戦国時代きっての美人として、また、運命に翻弄された悲劇のヒロインとして知られるお市の方。今回は、彼女の生存説を取り上げます。



お市の方

お市の方は、天文16年（1547）年に織田信長の妹として、尾張の国に生まれました。実家の織田家は、越前の国、織田庄（現在の越前町織田）にある劔神社の神官だったと言われ、その後、室町幕府の有力者、斯波氏の家臣として尾張の守護代を務めるようになり、信長の代に至りました。お市の方は、信長の命で、永禄10（1567）年、近江（滋賀県）の小谷城主浅井長政に嫁ぎ、三人の娘（淀殿（茶々）、常高院（初）、崇源院（江））と二人の息子をもうけます。

信長の越前攻めに端を発した戦いで、長政と死別した後は、柴田勝家と再婚しますが、勝家が羽柴（豊臣）秀吉に攻められ、天正11（1583）年4月24日、越前北庄城で自害します。37歳でした。お市の方の辞世の句は「さらぬだに打ちぬる程も夏の世の 別れを誘う時鳥かな（時鳥（ほととぎす）はあの世からの鳥というけれど、そうでなくても寝ているはずの夏の世に、この世からの別れを告げているようだ。）」と伝えられています。お市の方は、その死後も、越前、そして現在の福井県の南西部にあたる若狭の国と深い縁で結ばれ、次女のお初が後の小浜城主、京極高次に嫁いだほか、三女のお江と将軍秀忠の娘、勝姫は福井藩第2代藩主松平忠直に嫁ぎました。

お市の方には、生存説があります。北庄城が落城する前の夜、お市の方は、城の裏手を流れていた足羽川から脱出し、勝久寺（現在の坂井市三国町）に落ち延びました。寺の離れに潜伏した後、三国湊の豪商、森田家に匿われます。森田家は、信長の支援者で、織田家を財政面から支えた商人の一人でした。

その後、森田家内の旧浅井家家臣の手引きで、お市の方は近江の国に移ります。さらに、同じく浅井家の残党の浅井治郎左衛門の案内により、伊賀の下友田に移り住み移り、慶長4（1599）年に53歳で没しました。浅井治郎左衛門はお市の方の死後、茶毘にふされたお市の方の喉仏を保管し続けたということで、その喉仏が現在も、三重県伊賀市の浅井長政供養塔に納められているということです。

この生存説が生まれた背景について、「それからのお市の方一北ノ庄落城異聞」の作者、中島道子氏は、「秀吉の目を恐れて、闇から闇へ生きざるを得なかった悲劇のヒロインを守り続けたのは、浅井の遺臣ではないか」と述べています。浅井の残党は、結束を維持し続けていくため、お市の方という存在を必要とし、生存説を作り上げたのかもしれませんが。名だたる武将に愛された絶世の美女、お市の方は、福井に生きる我々の記憶の中にこれからも生き続けることでしょう。

<参考資料> 『それからのお市の方一北ノ庄落城異聞』（新人物往来社）

～戦国ふくい歴史紀行～ [西光寺(さいこうじ)]

・柴田勝家の菩提寺、西光寺。境内には、勝家とお市の方の墓があります。秀吉軍に攻められ、北庄城で命を絶つに先立ち、3人の姉妹の将来などを住職に託したと伝えられています。勝家の書や刀剣などを展示する柴田勝家公資料館があります。

【住所】福井市左内町8-21（JR福井駅西口から福井鉄道乗車、足羽山公園口下車徒歩3分）



西光寺

★お知らせ 美のまちまつり「お市まつり」を開催！

- ・平成29年4月15日（土）に、柴田神社で、ふくい春まつりの連携イベントとして開催（10:00～16:00）
- ・お市の方にちなんだお菓子のふるまいや戦国茶会、戦国一のモテ美人だったお市の方を祀る柴田神社本殿でのモテ祈願などを実施。ぜひ、お越しください。

【住所】福井県福井市中央1-21-17 【問い合わせ先】0776-30-0330